

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 滋賀県立守山中学・高等学校 (※正式名称を記載)
種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☐ 小学校 ☐ 小中一貫^{※注1}
☐ 中学校 ☒ 中高一貫^{※注2} ☐ 高等学校
☐ 教員養成大学 ☐ 専修学校、各種学校
☐ 特別支援学校
☐ その他（例：小中高一貫 ）
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む
所在地 〒524-0022
滋賀県守山市守山三丁目 12-34
E-mail moriyama-jsh@pref-shiga.ed.jp
Website www.moriyama-h.shiga-ed.jp/
幼児児童生徒数 男子 455名 女子 602名 合計 1057名
幼児・児童・生徒の年齢 12歳 ～ 18歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

3. 活動内容

(1) 活動の概要（800字程度＋活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

当校は、「持続可能な社会を実現する守山プロジェクト」をプロジェクト名として、ESDを「21世紀の日本がめざすべき成熟型社会」について考える機会と捉え、ESDの実践を通じて「持続可能性について考え、行動する」力の育成を目標とした。

具体的には、「社会のありかた」、「自分のありかた」、「自然のありかた」の3つの視点を柱に、①各種ディベート活動 ②フィールドワーク活動 ③各種講演やワークショップの学習活動を行った。

① 中学生に係わる活動・学習

主に、科目「国語ディベート」、「英語ディベート」、「ソーシャルスタディ」、「理科サイエンス」において活動を行った。各科目に「ディベート」の時間を設けることで、「社会のありかた」、「自分のありかた」、「自然のありかた」についての基礎・基本的な知識や問題点を把握し、それらに対する解決について関心を持ち、実践しようとする態度の育成に努めた。

② 高校1年次に係わる活動・学習

高校1年次の「総合的な学習の時間」において、外務省講座等、サステナビリティに係わる学習の後、関連する論題についてディベート活動を行った。ディベートそのものの勝敗を重視するのではなく、級友たちと議論することによって、論点に対して複眼的な視点を持つことを目的とした。

③ 高校2年次・3年次に係わる活動・学習

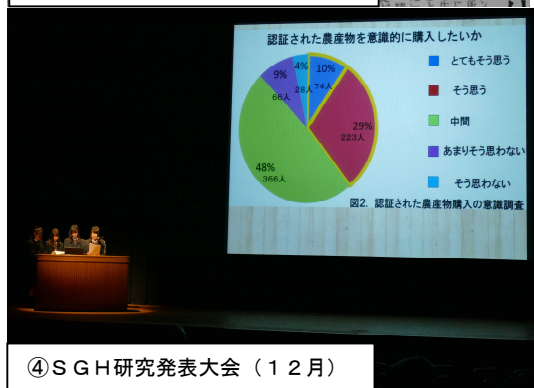
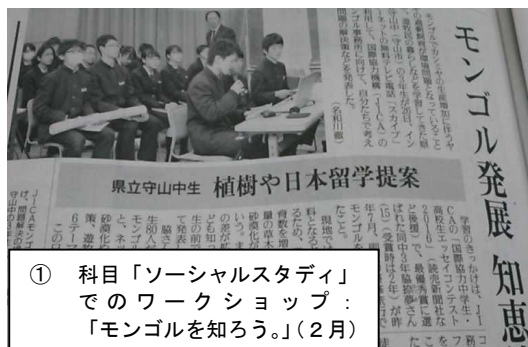
高校2年次の「総合的な学習の時間」において、サステナビリティに関わる学習の後、個々に設定したテーマに基づいたフィールドワークを行い、そこで学んだことについて、プレゼンテーションを行った。「社会や自然のありかた」、そして「自分のありかた」を考え、その内容を的確に伝える能力の涵養が、その目的である。

また、高校3年次には、現代社会の様々な課題に関する小論文作成に取り組み、課題についての理解やそれらに対する意見をより深いものとした。

④ S G H（スーパーグローバルハイスクール）課題研究生による研究・活動

各学年での教育活動とは別に、S G H課題研究生（希望する生徒たちが活動）による研究・活動を推進させた。

具体的には、「地元守山でのホテル再生プロジェクト」、「地元滋賀の特産品を利用した弁当の作製」等、「自然のありかた」を通じて「社会や自分のありかた」を考える内容の課題研究が多くを占めている。また、これらの研究内容を発表し、外部との交流の機会にも積極的に参加した。



(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野（複数選択可）

■ 1. 環境	■ 2. エネルギー	□ 3. 防災	■ 4. 生物多様性
□ 5. 気候変動	■ 6. 国際理解、文化多様性	□ 7. 地域の伝統文化、文化遺産	■ 8. 人権・平和
□ 9. 健康・福祉	■ 10. 食育	■ 11. 持続可能な生産と消費	□ 12. 貧困
□ 13. エコパーク	□ 14. ジオパーク	■ 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
□16.ジェンダー平等	□ 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他(SGH課題研究生の活動)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

- ・「高校生のためのサステナビリティ」(滋賀県立守山中学・高等学校)
- ・「SGH探求 Sustainability× DEBATE 2017」
(滋賀県立守山中学・高等学校)

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（２００～３００字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

先述のように、ユネスコスクールとしての本校の活動を、中学校課程においては各科目・各教科を通じて、また、高等学校課程においては、主に「総合的な学習の時間」において位置づけられている。いずれの学年においても、生徒たちはただ学習内容を受信するだけでなく、何らかの方法を用いて、学び、体験した内容について発信し、それに対するフィードバックを得る機会を持つように努めている。

また、「総合的な学習の時間」以外の授業においても、「社会のありかた」、「自分のありかた」、「自然のありかた」を意識させる授業展開を心掛けている。

（これについては、日本ユニセフ協会発行『『持続可能な開発目標』を伝える先生のためのガイド』を参照している。）

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（２００字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

中学校の先述の各科目、また高等学校の「総合的な学習の時間」において、原則教員２名体制で臨んでおり、生徒たちへのきめの細かい指導を図ると同時に、より多くの教員がＥＳＤ活動に係わる取り組みを進めている。

また、「ディベート活動」については、本校の教務部ＳＧＨ課が企画し、「フィールドワーク活動」については、進路指導部が企画することで、特定の部署に偏ることなく、広く学校全体で「総合的な学習の時間」を担当するよう工夫に努めている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部／外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（２００字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

毎年、生徒、保護者、教職員による学校評価アンケートを行っている。また、ＳＧＨ指定校としての助言を、文部科学省やＳＧＨ運営指導委員から受けている。

主な成果としては、多くの生徒たちが自ら主体的に学び、その内容をディベート、プレゼンテーション、小論文の作成を通じて発信できたことが挙げられる。

一方、主な課題としては、より多くのＳＧＨ課題研究生を育てること、そして取り組み内容を、特に海外へ発信させる機会を増加させることが挙げられる。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

主な活動成果の発信方法については、毎年12月下旬に開催される、「SGH研究発表大会」(SGH課題研究生による)や、2月下旬に開催される「フィールドワーク発表会」(高校2年生の学級代表者による)が挙げられる。

特に「SGH研究発表大会」については、地元滋賀県や守山市の環境保護関連のNPO法人の方々、また滋賀県外を含む学校等、外部からの発表内容について講評を頂戴する機会に恵まれており、新たな知見やつながりが生まれる絶好の機会となっている。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度)

※チェック事項 2-3 に対応

特にSGH課題研究生による「ホテル再生プロジェクト」の研究において、滋賀県や守山市役所、地元NPO法人、近隣大学の先生方との交流が生まれ、ネットワークが形成されつつある。そのことがきっかけで、地元小学校の児童と共に、河川を掃除する等の活動、更に、河川の浄化のつながりで、アメリカ、ミシガン州からの講師に本校で講演いただく等、活動の輪が大きくなってきている。

今後、「ホテル再生プロジェクト」以外の研究においても、このようなつながりの育成に努めたい。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度)

※チェック事項 2-4 に対応

地元の各機関との連携が徐々に深まりつつあるが、「ユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成」については、来年度以降の課題である。今年の10月には、茨城県にて「世界湖沼会議」が開催予定であり、それに絡めて、当校と先方のニーズを見極め、時間をかけて取り組んでいきたい。

例えば、琵琶湖の環境保全をテーマに校種を問わず、国内のユネスコスクールとの連携、また、湖の水質保全をテーマに、海外のユネスコスクールとの連携が、今後考えられる。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

本校がユネスコスクールとして認定頂いたことで、外部との交流や連携の機会が格段に増加した点が挙げられる。

他のユネスコスクールとの連携が今後の課題だが、概して本校生徒たちは、学校外の人たちを講師として迎え、様々なことについて学び、質問することに、以前と比べて抵抗が少なくなったと考えられる。質疑応答も時を追うごとに活発なものとなってきている。今後、生徒たち自身の視野が広がっていくための、大変好ましい傾向であると言える。

(3) 平成 30 年度の活動計画 (200~400 字程度)

活動テーマ：『持続可能な社会を実現する守山プロジェクト』

① 運営方針

高校の課程では、「高 1 ディベート学習」「高 2 総学フィールドワーク」「SGH 課題研究チーム」を大きな 3 本柱として、学校全体で取り組む。研究（講義、研修）に偏らず、「持続可能な社会」を目指して着実に行動に移していく。

② 具体的な取り組み

(1) 「高 1 ディベート学習」

1 学期に SGH ガイダンス、サステナビリティ関連の講義とワークショップを経て、2 学期よりディベート対戦を開始する。

(2) 「高 2 総学フィールドワーク」

進路指導部の運営に絡んで進めていく。進路・仕事とサステナビリティの関連を意識した講義とワークショップを計画する。

(3) 「SGH 課題研究チーム」

① 課題研究：年間を通して

② 海外研修・国内研修：主に夏季休業中

③ 課題研究発表大会：12 月下旬

(4) サステナビリティに関するワークショップ

① 6 月：1・2 年生

(5) SGH 課題研究チーム対象の各種講座

① 7 月：イギリス研修（8 月中旬）の事前学習

② 11 月～12 月：課題研究発表大会（12 月下旬）の準備・指導

③ 1 月～2 月：高校 1 年生新チームへのサステナビリティ学講座

(6) 知の最先端体験研修：（8 月上旬 中 3・高 1・高 2 生徒の参加）

① 東京大学オープンキャンパスへの参加

② 東京大学柏キャンパスにてサステナビリティ講座

③ 本校 OB・OG との座談会

④ 早稲田大学・慶応大学の見学

(7) 地域との連携「ホタルの再生プロジェクト」等

(8) 教員研修・研究授業

(9) 各種国際交流

(10) 本校 HP の更新

(11) 校内のサステナビリティ改革（学校全体での取り組み）

① 職員会議のペーパーレス化

② 節電対策…昼間・不要箇所の積極的消灯、残業縮小など

③ CO2 対策…ノーマイカーデー（可能な限り）など